

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら川越岸町教室		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ 令和6年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ R6年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援から放課後等デイサービスへの持ち上げに安心感がある	・現在まで、児童発達支援をご利用の児童様には、放課後等デイサービスへ持ち上がる際には週5のご利用枠をご用意している。 ・放デイ体験を期間的に実施することで、「事前に慣れながら見通しを持つことができる」ステップを用意している。	安心して利用していただけるようコミュニケーションを継続し、引き続きニーズの把握と分析に努める また、そのために必要な工夫・思考を行っていく
2	会社系列の事業所が複数ある (プレ幼稚園の枠組みをつくり、同じタイムテーブル・プログラムを共有することで、安定した療育支援を提供できる)	・会社系列の事業所との定期交流を行っている ・会社系列の事業所の児発管と月に1度の交流の場があり、横の繋がりをしている	多くのケースや成功例又は失敗例に触れながら、月に一度からある他事業所との交流を有効活用していく
3	児童の意思決定を尊重するようなプログラムの実施やスケジュールの構成を行っている。	おやつバイキングや、買い物体験を通して、児童が求めているものを選んだり購入したりできるように取り組んでいる。 日々のプログラムの中でも、遊ぶ物を固定化せず、必要な物を提供している。	場面毎にやるべきこともあるので、メリハリをつけて日々を過ごせるよう見通しを持てるような支援方法を実施し、事前に準備をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントの実施機会が少ないと保護者様が感じている	保護者参加の機会が、 ・親子参観 ・誕生日会 ・教室イベント ・卒業遠足 にとどまっている	それぞれの家庭が全てのイベントに参加できていないことを意識したうえで、情報発信をこまめに行っていくときにはアンケートを取入れ、更にイベントの実施を行えないチームでチャレンジする
2	幼稚園やセンター等の関係機関との連携をより強化する	併用児童のお子様の様子を他事業所様と共有する機会がサービス担当者会議のみとなっている	保護者様と連携を取りながら、他事業所での様子の見学等をする機会を定期的に作る
3	利用者様のお子様に対してのアドバイスが欲しいと感じている	保護者様とのコミュニケーションの機会が送迎時、又は①のイベントの際にとどまっている 情報発信をしている内容が固定化されている。(お便り等)	各イベントの際には、保護者様とのコミュニケーションを取る機会を多く取り入れられるように企画を行う。 また、児童の行動や成長におけるコラムをお便り等を活用し、情報発信をしていく事で悩み解決のきっかけ作りを行う。 送迎時だけではなく連絡帳等でのやり取りを密に行えるよう

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日		～ 令和6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援から放課後等デイサービスへの持ち上げに安心感がある	・現在まで、児童発達支援をご利用の児童様には、放課後等デイサービスへ持ち上げる際には週5のご利用枠をご用意している。 ・放デイ体験を実施してきた事から「事前に慣れた場所」で生活をする事が出来、集団遊びに参加する事がスムーズになっている。	安心して利用していただけるようコミュニケーションを継続し、引き続きニーズの把握と分析に努める また、そのために必要な工夫・思考を行っていく
2	会社系列の事業所が複数ある (プレ幼稚園の枠組みをつくり、同じタイムテーブル・プログラムを共有することで、安定した療育支援を提供できる)	・会社系列の事業所との定期交流を行っている ・会社系列の事業所の児発管と月に1度の交流の場があり、横の繋がりをしている	多くのケースや成功例又は失敗例に触れながら、月に一度からある他事業所との交流を有効活用していく
3	児童の意思決定を尊重するようなプログラムの実施やスケジュールの構成を行っている。	おやつバイキングや、買い物体験を通して、児童が求めているものを選んだり購入したりできるように取り組んでいる。 日々のプログラムの中でも、遊ぶ物を固定化せず、必要な物を提供している。	場面毎にやるべきこともあるので、メリハリをつけて日々を過ごせるよう見通しを持てるような支援方法を実施し、事前準備をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントの実施機会が少ないと保護者が感じている	保護者参加の機会が、 ・教室還元イベントにとどまっている	それぞれの家庭が全てのイベントに参加できていないことを意識したうえで、情報発信をこまめに行っていくときにはアンケートを取入れ、更にイベントの実施を行えないかチームでチャレンジする
2	他事業所様や学校等の関係機関との連携をより強化する	併用児童のお子様の様子を他事業所様と共有する機会がサービス担当者会議のみとなっている	保護者様と連携を取りながら、他事業所での様子の見学等をする機会を定期的にする
3	利用者様のお子様に対してのアドバイスが欲しいと感じている	保護者様とのコミュニケーションの機会が送迎時、又は①のイベントの際にとどまっている 情報発信をしている内容が固定化されている。(お便り等)	各イベントの際には、保護者様とのコミュニケーションを取る機会を多く取り入れられるように企画を行う。 また、児童の行動や成長におけるコラムをお便り等を活用し、情報発信をしていく事で悩み解決のきっかけ作りを行う。 送迎時だけではなく連絡帳等でのやり取りを密に行えるようにする。